

中学生の「税についての作文」

大川三瀧法人会 会長賞

災害に使われる税

大川市立大川南中学校

三年 今 村 ゆ い

「税」を辞書で引くと、「国費・公費をまかなうために、国・地方公共団体が国民・地域住民・消費者などから強制的に徴収する金銭」とあります。強制的に国費・公費をまかなうために徴収される、と聞くと、なにか損をしているように聞こえますが、この税が私たちの暮らしを支えています。私たちが通う学校も、その学校に通う時に通る道路も、みんなが納めている税金が、社会のために使われています。

私は、災害が起こった時に注目しました。災害が起こったときも税金が使用されるのです。父からそのことを聞いて、とてもびっくりしました。なぜなら、私はいつも、災害が起こったとき、復旧作業などに使われるお金がどこから出されているのか、気になっていたからです。

災害が起こったときにお金が必要になることは、例えば、食糧、衣服、防寒具、水道、ガス、がれき撤去、仮設住宅の建設など、挙げたらきりないほどあります。これを被災者の方がすべてお金を払うとしたら、負担するお金はそうとうな

額になります。生活するだけで大変なのに、と思いますよね。今は、ボランティアや募金により、少しは負担額が減っているように思いますが、やはり、税金が被災者の方の生活を支えているようです。

豪雨災害のときは、土砂を撤去する作業や橋や道路の崩壊した部分を修理したりすることに使われました。地震・津波の災害のときは、仮設住宅の建設や、救出作業などに使われました。他には、食糧などの調達にも使われました。どれも、生活をするうえで必要なことです。そのようなことが、私たちが払っている税金でまかなわれています。

私たちが毎日のように払っている税金は、災害に遭った日本のだよこの誰かの生活を支えている、ということがいえると思います。たとえその納税者が中学生だろうが大人だろうが、払っていたら、そういえると思えました。中学生の私には、そのことがとても大きな問題のことにように思えるのですが、それはとても、身近な問題であり、誰もが考えなければいけない問題だと感じました。今の私は誰かを助けている立場ですが、もし私の近くで災害が起こったら、その立場が変わるかもしれません。助け合いが大事だということを改めて感じさせられます。また、誰もが過ごしやすい社会をつくるために、税金が必要だと、改めて感じました。税金にはきちんと意味があるのだと思えました。税金が使われているものに感謝しながら、払わなければいけないお金をきちんとはらうことが大事だと思います。私たちは、これから大人になるので、災害だけに限らず、教育や福祉なども、正しく、平等で、効率の良い税金の使い方を学び、考えていかなければいけないと強く思いました。